

-91-

頸部腫瘍のRI診断

昭大 耳

○窪田 哲昭, 米山 正美

私共は頭頸部悪性腫瘍のRI診断について種々発表してきたが、今回は頸部腫瘍に対するRI診断の経験について述べる。

頸部腫瘍は唾液腺、リンパ腺、甲状腺などから発生するものが多く、疾患としては悪性及び良性腫瘍、炎症など様々なものがある。それらの鑑別のため $^{67}\text{Ga-citrate}$ 、又は $^{57}\text{Co-BLM}$ によるシンチグラムにて悪性か否かの質的診断を行い、又、唾液腺と関係あると思われる腫瘍には $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 、甲状腺には ^{131}I を用い腺の機能面より病態を推察した。その結果、他の一般検査法と併用することにより又症例によってはこれらのシンチグラムのうち2種以上を併用することにより治療上有用な資料が得られるものと思われた。

-92- 四肢骨軟部腫瘍に対するRIの診断的応

用 - とくに $^{99\text{m}}\text{TcMAA}$ 、 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ によるangio-scanningの診断的価値について-

千葉大 放射線科

○曾原道和, 有水 昇, 永瀬隼史

千葉大 整形外科

井上駿一

千葉県がんセンター 核医学

油井信春, 木下富士美, 小环正木

千葉県がんセンター 整形外科

高田典彦, 保高英二

< 目的 > 骨および軟部腫瘍の診断にあたり、臨床所見、X線所見、血管造影所見、病理組織所見とならびRIによるシンチグラムは重要な位置を占めるにいたった。現在我々は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 標識燐酸化合物による骨スキャンニング、 $^{67}\text{Ga-citrate}$ による軟部腫瘍スキャンニングをroutineに行っており、腫瘍診断上その診断的価値をみとめている。しかし一方炎症その他腫瘍類似疾患との鑑別診断は集積像のみからは困難である。この診断上の温路を打破すべく $^{99\text{m}}\text{TcMAA}$ 、 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ によるangio-scanningを骨腫瘍41症例、その他骨疾患8例および軟部腫瘍24例、炎症3例、計74例に対して施行し、その集積像の動態的観察を行った。

< 方法 > $^{99\text{m}}\text{TcMAA}$ あるいは $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ を支配動脈から注入し、ただちにclinical data systemをもちいて集積像およびその経時的变化を記録した。

< 結果 > 1、骨原発悪性腫瘍15例中全例が $^{99\text{m}}\text{TcMAA}$ angio-scanにて陽性所見をみとめ、転移性骨腫瘍においても91%の陽性描画率を得た。骨良性腫瘍15例では9例(60%)に陽性所見をみとめた。また軟部悪性腫瘍17例では15例(88%)に陽性所見をみとめ、良性腫瘍では線維性黄色腫の1例を除いて全例陰性所見を示した。腫瘍以外の骨疾患、炎症その他腫瘍類似疾患においては陽性率は低い。

2、 $^{99\text{m}}\text{TcMAA}$ 、 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ 動注による集積像の経時的变化を検討したが、骨肉腫、軟骨肉腫、横紋筋肉腫、血管肉腫などの悪性腫瘍においては腫瘍への集積が早くかつ健常部分に比して集積度が高い。また骨巨細胞腫などの悪性度の低い腫瘍では集積時間がやや遅くなり、健常部分との集積比は低くなる傾向がみとめられた。